

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3650180023	
法人名	医療法人 鈴木会	
事業所名	認知症共同生活介護 グループホーム蜂須賀荘	
所在地	徳島市応神町古川字日ノ上32番地の1	
自己評価作成日	令和2年10月14日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階
訪問調査日	令和3年11月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「1人ひとりの尊厳を大切に」の理念に基づき、自由で暖かく、落ち着く雰囲気作りに心掛けている。職員は研修、勉強会を通じて不適切ケアの改善、予防策、認知症ケアのことであり、1人ひとりのニーズに合わせた身体的、精神的サービスを提供し、出来る限り本人や家族の希望に添えられるよう支援している。かかりつけ医以外の病院受診にも対応しており、安心して生活が送れるよう支援している。また、コロナ禍前までは近隣大学のこども園慰問、実習生の受け入れ、町内会の行事へ参加し地域交流にも力を入れていた。面会制限で不自由な部分は、建物内の楽しんでる風景を今までより多く発信したり、利用者直筆の手紙を発信したりしコロナ禍での工夫にも力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、吉野川の堤防沿いに位置し、近隣に大学やこども園等がある恵まれた環境のなかに位置している。敷地内には、同一法人の運営する他サービス施設が併設し、協力体制を築いている。利用者の尊厳や楽しみ、生きがいを大切にした理念を掲げ、スピーチロックや接遇、ハラスメント等、職員教育に力を入れている。新型コロナウイルス感染症の流行下においても、自治会長やコミュニティセンターと連絡を取りあい、地域の一斉清掃に参加するなど、地域の一員として交流を続けている。敷地内の散歩も頻度を増やし、利用者が気分転換できるように支援している。家族等にも、利用者が書いた手紙や行事写真、事業所だよりなどを送付するなど、こまめな連絡を心がけている。医療機関や看護師等と連携し、夜間や緊急時にも対応可能な体制を整え、利用者や家族等の安心につなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に理念の唱和を行い、利用者の尊厳を大切にすること、楽しく笑顔で過ごせるよう全職員が共有し、自覚を持って業務に当たるよう努めている。	事業所は、開設当初からの理念を大切にしている。理念は、朝礼時に唱和したり、オリエンテーションで新人職員に伝えたりして、共有化を図っている。また、事業所だよりに理念を記載するなど、外部の人に伝える工夫も行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	近隣大学のこども園が駐車場まで慰問してくれている。町内のイベントはコロナ禍のため中止となっている。文書のやり取りや、一斉清掃には参加している。	事業所では、感染症(コロナ等)の流行下においても、自治会長やコミュニティセンターと連絡を取りつつ、関係性を継続している。事業所の駐車場には、近隣こども園の園児の訪問があり、交流を図っている。職員は、町内の一斉清掃に参加し、草刈りを行うなど、地域の一員として活動している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	大学の実習生受け入れはコロナ禍のため中止している。運営推進会議は書面会議で、認知症ケアなどの勉強会資料を郵送している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため書面会議を実施している。地域の方や家族、他事業所に、事業所の報告や取り組みを郵送し、返信文書や電話で意見を頂き、対応の改善に取り組んでいます。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。感染症の流行下においては、各委員に事業所の取り組み等について文書を郵送するとともに、返信用封筒や電話を活用し、意見を得ている。出された意見等は職員間で共有し、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	実績報告書、運営推進会議議事録の提出をし、市役所では直接相談ののってもらうこともある。	管理者は、月1回、市の担当窓口を訪問し、実績報告等、事業所の取り組みについて伝えている。困難事例やヒヤリハット等を報告し、問題解決に向けた話し合いを行い、協働関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を設置し、身体拘束廃止の研修を行い職員が理解し業務に取り組むようにしている。	事業所では、年4回、身体拘束に関する研修を行っている。日ごろのケアのなかで気になったことなど、職員間で話しあう機会も設けている。日中は玄関を開錠し、利用者を見守りつつ、一緒に外に出たり、散歩の回数を増やしたりして、自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を設置し高齢者虐待防止の研修を行い職員が理解に深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名利用されている。マニュアルを設置しており、研修会を開催し理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に本人、家族と面談し契約内容など説明を行っている。その際に要望や質問を受け付け、希望に添えられるよう十分に話し合いを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族から頂いた言葉はその都度職員で話し合いケアに活かしている。また申し送りや業務日誌に記録し、周知徹底を行っている。	職員は、日ごろの利用者とのかかわりのなかで、意見や要望の把握に努めている。家族等については、電話連絡や来訪の際に意見等を聞いている。出された意見等は、職員間で共有し、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人の連絡会議をミーティング時に報告を行っている。毎朝の申し送り時にも意見や提案が聞けるよう時間を設けている。	事業所では、毎朝の申し送り時に、職員の意見や提案を聞き、話しあう機会を設けている。年2回、個別面談の機会もある。出された意見等は、職員間で話しあうなどして、職員の負担軽減や働きやすい環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップシステムを導入している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回施設内勉強会、外部研修の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の運営推進会議(書面会議)や外部研修に参加し他施設の方との交流を持ち、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人、家族と面談し生活歴や趣味等の把握に努め、希望などを直接聞く機会を作っている。入居後は1週間生活状況をモニタリングし安心して生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面談し不安や要望を伺い、入居後にはどのような対応が出来るか等を話し合うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネージャーより情報を貰い、本人と家族にとって良いサービスが提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「楽しみ生きがいを共有し」の理念に基づき暮らしの中で職員と利用者が、共に何かをやり遂げ、支えあうことを実践している。現在は壁面の飾り付けを毎月一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の様子や身体状況を連絡し意向も、お伺いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため面会制限を行っている。色々条件をふまえて面会は行っている。電話でのやり取りの支援は今まで以上にしている。	事業所では、感染症の流行下においても、状況に応じて面会方法の工夫を行い、利用者が馴染みの人と面会することができるよう工夫している。電話のやり取りを支援したり、利用者に手紙を書いてもらったりして、関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	耳が遠い方でも職員が間に入り、利用者同士のコミュニケーションが上手くいくよう工夫している。また、トラブル防止のため職員が必ず1人はホールにいるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も必要に応じて関係を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人ひとりの思いや暮らし方の希望の聞き取りを行いケアに反映させている。利用者の、できることを奪わない介護に留意している。	職員は、日ごろの利用者とのかかわりのなかで、言葉や表情等から思いや意向の把握に努めている。意思の表出が困難な利用者については、家族等と相談するなどして、本人本位に検討している。気づきや情報は、職員間で共有し、支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前後も本人、家族からその都度生活のことを聞き取りして職員間で情報の共有を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りで心身の状態や様子等の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にあセスメントを行いカンファレンスを開催し計画を作成し提供している。	事業所では、利用者や家族等、職員、主治医、作業療法士など、多職種からの意見や情報を得て、介護計画を作成している。定期的なモニタリングや見直しに加え、利用者の心身状況の変化に応じた見直しも行い、現状に即した計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子をケース記録、業務日誌等に記録し申し送りで共有し実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の付き添いや訪問歯科の利用、1人ひとりの状況に応じ臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため自粛しているが、町内会長とは定期的に連絡しており、今後も地域交流を継続していく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望があれば入居後も母体の病院ではなく昔からのかかりつけ医の継続も行っている。現在は職員が受診に付き添い、家族に報告している。	事業所では、利用者や家族等の希望するかかりつけ医の受診を支援している。感染症の流行下においては、職員が受診を支援し、家族等と情報を共有している。事業所に看護職員を配置するとともに、週1回、訪問看護の来訪もある。医療機関と夜間や緊急時の連携体制を整備し、適切な医療の受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員、訪問看護事業所と連携を図り相談、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は医療機関と連携を密にとり、退院後の生活がスムーズに送れるよう支援する。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の段階で説明し今後の対応を話し合っている。終末期の対応の指針について家族、かかりつけ医、職員等で方針を共有し支援に取り組んでいる。	入居時の段階で、重度化や終末期における事業所の方針について、利用者や家族等に説明し、意向を確認している。利用者の心身状況の変化に応じて、再度意向を確認し、関係者間で方針を共有し、支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの掲示。勉強会の実施。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震(つなみ)想定避難訓練の実施。防災委員会の開催を行っている。	年2回、日中と夜間の火災や地震等を想定した避難訓練を行っている。併設の他サービス施設と連携し、非常食等の備蓄品を管理している。防災委員会を開催し、災害対策について話しあっているが、管理者は、夜間帯の避難誘導に地域協力の必要性を感じている。	今後は、夜間帯における、職員のみでの避難誘導の限界をふまえ、地域住民や消防署・分団等との協力体制の構築が望まれる。防災委員会や防災訓練に、近隣大学の講師や学生、消防署・分団等の有識者、地域住民などの参加を得るなど、協力体制の構築へ向けた取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「1人ひとりの尊厳を大切にし」の理念に基づき、謙虚な態度を常に持つよう心掛けている。また、スピーチロック、接遇の勉強会を開催し自己研鑽に努めている。	事業所では、年1回、接遇に関する研修を行ったり、ミーティング等で話しあったりして、職員間で意識の統一化を図っている。職員は、理念にもとづき、利用者を尊重し、さりげない言葉かけ等に努めている。衣類やオムツ等の持ち運びの際にも周りの目に気を配るなど、細やかに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情や行動で読みとり、利用者1人ひとりが自己決定できる環境作りを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝時間など体調に合わせて希望を聞き支援できるように対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれを楽しんでもらえるよう、出来る限りご自身で選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや食器洗いを職員と一緒にに行い、感染対策に留意し昼食は職員も一緒に摂りコミュニケーションを図っている。	事業所では、月1回の給食委員会で利用者の好みを把握し、管理栄養士が献立を作成している。炊飯と汁物の調理は、事業所で行っている。利用者には、盛り付けや配膳、洗い物等、できることで役割を担ってもらうなどして、生きがいづくりにつなげている。お寿司をテイクアウトしたり、希望に応じておやつづくりを行ったりして、食事を楽しむことができるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を記録し、少ない場合は好みの飲み物等を提供し摂取してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施。 訪問歯科衛生士に口腔ケアに関する指導を受け実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録し利用者の排泄パターンを把握しトイレでの排泄を支援している。	職員は、排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。さりげない誘導で、日中、夜間ともに可能な限りトイレでの排泄を支援している。希望により同性介助を行い、夜勤職員の配置にも配慮している。排泄の自立に向けて支援することで、生きる意欲や身体機能の向上につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をしっかり摂り、運動する機会を増やし便秘予防、改善に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本の入浴日は決まっているが、希望、体調により随時対応は出来ている。 季節に応じてしょうぶ湯、ゆず湯実施している。	事業所では、少なくとも週2回の入浴ができるよう、利用者の希望や体調にあわせて支援している。入浴を拒む利用者については、時間帯や日を変えるなどして、無理強いくことなく支援している。利用者のこだわりのシャンプー等を使用したり、季節に応じてゆず湯や菖蒲湯を行ったりして入浴を楽しむことができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない時はホールで話をしたり、テレビを観たり、本を読みながらお茶やお菓子を楽しむこともある。 日中でも倦怠感みられる時などは、臥床を促し休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局の居宅療養管理指導を利用し薬の管理を行っている。誤薬がないよう準備は2名でダブルチェックし、服薬の際は名前、日付を声に出して確認してから行うようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意なこと、出来ること等を見つけ家事、余暇の時間などで工夫している。押しつけでなく気分転換になるよう気を付けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため表立っての外出行事は自粛している。事業所の軒下の花壇に季節の花を植えてあり日常的に散歩に出掛けている。	事業所では、気候の良い日に周辺の散歩に出かけている。敷地内の季節の花を眺めるなど、外気にふれる機会を設けている。また、病院受診時にドライブで遠回りをして、車中から景色を眺めることで、季節を感じるできるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			ユニット1	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で財布を管理されている方が1名。移動販売等で買い物をする際は事業所が一旦立て替えている。お金を使う支援は行っていないが、今後に向けて検討中です。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される時に電話を掛けたり手紙等の支援を行っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾り付けや利用者と一緒に作った作品、行事の写真などを掲示し、来荘者も楽しめる工夫をしている。	共用空間は、利用者とともに作成した季節の作品や行事の写真等を飾り、季節感がある。ソファやマッサージチェアを配置し、利用者が思い思いの場所で寛ぐことができるよう工夫している。利用者と一緒に清掃を行ったり、温度や湿度に気を配ったりして、居心地の良い共用空間づくりに取り組んでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや談話室にソファ、マッサージチェアを置き、ゆっくり過ごせるよう工夫している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使い慣れた家具を持参している。本人が居心地よく過ごせるようレイアウトの手伝いをしている。	居室には、ソファやタンス、仏壇などの利用者の馴染みの家具や調度品、写真等を持ち込んでもらっている。安全性に配慮して家具配置を行い、換気にも注意している。また、利用者とともに掃除を行うなど、清潔で居心地の良い居室となるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の場所が分からなくなってしまう方へ表札の工夫を行ったり、トイレの場所もわかり易く工夫している。			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に理念の唱和を行い、利用者の尊厳を大切にすること、楽しく笑顔で過ごせるよう全職員が共有し、自覚を持って業務に当たるよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣大学のこども園が駐車場まで慰問してくれている。町内のイベントはコロナ禍のため中止となっている。文書のやり取りや、一斉清掃には参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	大学の実習生受け入れはコロナ禍のため中止している。運営推進会議は書面会議で、認知症ケアなどの勉強会資料を郵送している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため書面会議を実施している。地域の方や家族、他事業所に、事業所の報告や取り組みを郵送し、返信文書や電話で意見を頂き、対応の改善に取り組んでいます。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	実績報告書、運営推進会議議事録の提出をし、市役所では直接相談にのってもらうこともある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を設置し、身体拘束廃止の研修を行い職員が理解し業務に取り組むようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を設置し高齢者虐待防止の研修を行い職員が理解に深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名利用されている。マニュアルを設置しており、研修会を開催し理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に本人、家族と面談し契約内容など説明を行っている。その際に要望や質問を受け付け、希望に添えられるよう十分に話し合いを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族から頂いた言葉はその都度職員で話し合いケアに活かしている。また申し送りや業務日誌に記録し、周知徹底を行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人の連絡会議をミーティング時に報告を行っている。毎朝の申し送り時にも意見や提案が聞けるよう時間を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップシステムを導入している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回施設内勉強会、外部研修の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の運営推進会議(書面会議)や外部研修に参加し他施設の方との交流を持ち、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人、家族と面談し生活歴や趣味等の把握に努め、希望などを直接聞く機会を作っている。入居後は1週間生活状況をモニタリングし安心して生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面談し不安や要望を伺い、入居後にはどのような対応が出来るか等を話し合うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネージャーより情報を貰い、本人と家族にとって良いサービスが提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「楽しみ生きがいを共有し」の理念に基づき暮らしの中で職員と利用者が、共に何かをやり遂げ、支えあうことを実践している。現在は壁面の飾り付けを毎月一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の様子や身体状況を連絡し意向も、お伺いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため面会制限を行っている。色々と条件をふまえて面会は行っている。電話でのやり取りの支援は今まで以上に行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	耳が遠い方でも職員が間に入り、利用者同士のコミュニケーションが上手くいくよう工夫している。また、トラブル防止のため職員が必ず1人はホールにいるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も必要に応じて関係を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人ひとりの思いや暮らし方の希望の聞き取りを行いケアに反映させている。利用者の、できることを奪わない介護に留意している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前後も本人、家族からその都度生活のことを聞き取りして職員間で情報の共有を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りで心身の状態や様子等の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にあセスメントを行いカンファレンスを開催し計画を作成し提供している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子をケース記録、業務日誌等に記録し申し送りで共有し実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の付き添いや訪問歯科の利用、1人ひとりの状況に応じ臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため自粛しているが、町内会長とは定期的に連絡しており、今後も地域交流を継続していく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望があれば入居後も母体の病院でははく昔からのかかりつけ医の継続も行っている。現在は職員が受診に付き添い、家族に報告している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員、訪問看護事業所と連携を図り相談、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は医療機関と連携を密にとり、退院後の生活がスムーズに送れるよう支援する。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の段階で説明し今後の対応を話し合っている。終末期の対応の指針について家族、かかりつけ医、職員等で方針を共有し支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの掲示。勉強会の実施。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震(つなみ)想定避難訓練の実施。防災委員会の開催を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「1人ひとりの尊厳を大切にし」の理念に基づき、謙虚な態度を常に持つよう心掛けている。また、スピーチロック、接遇の勉強会を開催し自己研鑽に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情や行動で読みとり、利用者1人ひとりが自己決定できる環境作りを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝時間など体調に合わせて希望を聞き支援できるように対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれを楽しんでもらえるよう、出来る限りご自身で選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや食器洗いを職員と一緒に、感染対策に留意し昼食は職員も一緒に摂りコミュニケーションを図っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を記録し、少ない場合は好みの飲み物等を提供し摂取してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施。 訪問歯科歯科衛生士に口腔ケアに関する指導を受け実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録し利用者の排泄パターンを把握しトイレでの排泄を支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をしっかり摂り、運動する機会を増やし便秘予防、改善に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本の入浴日は決まっているが、希望、体調により随時対応は出来ている。 季節に応じてしょうぶ湯、ゆず湯実施している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない時はホールで話をしたり、テレビを観たり、本を読みながらお茶やお菓子を楽しむこともある。 日中でも倦怠感みられる時などは、臥床を促し休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方や薬の内容が変更になった際は業務日誌や申し送りを活用し伝達している。誤薬がないよう準備は2名でダブルチェックし、服薬の際は名前、日付を声に出して確認してから行うようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意なこと、出来ること等を見つけ家事、余暇の時間などで工夫している。押しつけてでなく気分転換になるよう気を付けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため表立っての外出行事は自粛している。事業所の軒下の花壇に季節の花を植えてあり日常的に散歩に出掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で財布を管理されている方が1名。移動販売等で買い物にする際は事業所が一旦立て替えている。お金を使う支援は行っていないが、今後に向けて検討中です。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される時に電話を掛けたり手紙等の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾り付けや利用者と一緒に作った作品、行事の写真などを掲示し、来荘者も楽しめる工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや談話室にソファ、マッサージチェアを置き、ゆっくり過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使い慣れた家具を持参している。本人が居心地よく過ごせるようレイアウトの手伝いをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の場所が分からなくなってしまう方へ表札の工夫を行ったり、トイレの場所もわかり易く工夫している。		